



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
 アジア会長主題 「変化をもたらそう」
 東日本区理事主題 「変化を楽しもう！」
 あずさ部部長主題 「変わるに挑戦！」
 東京西クラブ会長主題 「変化を恐れず、少しずつ」

2020年10月号
 NO 529

なまっている斧を研いでおけば力が要らない。知恵を蓄えておけば利益がある。
 旧約聖書コヘレトの言葉10章10節

今私たちが行うべきことは

大野貞次

この夏の猛暑も嘘のように収まり、だんだんと秋らしい気候になってきました。それにしても新型コロナウイルス感染症の猛威は収まりそうもなく、外出時はマスクをし、三密を避ける等の制約の中での生活です。クラブの活動も3月から7月までの5か月間例会も開くことが出来ずでしたが、やっと8月から例会を持てるようになり少しずつ活動ができること嬉しく思います。

今月の強調月間のテーマはEMC/EとYECです。特にEMC/Eクラブ拡張(新クラブ設立)は永遠の課題です。私たちのクラブの現在の力では到底実現させることは不可能な状況です。しかしながら少しでも前に進める努力が求められています。それは…まず自分のクラブの力をつけることでしょう。何しろいつの間にか東日本区のクラブの中で一二を争う高齢者クラブになってしまいました。

これからは少しでも若返りをしなければと考えますが??? さてさて老体に鞭打ちどこまでできるか、これは試練です。皆さんと知恵を出し合い前に進めていきたいと思うこの頃です。後は新型コロナウイルスの終息を願い正常な活動ができることを祈るばかりです。

10月の例会では、笑顔で皆様と再会し、新しい試みとしてリモート会議について学びの時を持ちたいと願っています。このリモート会議とは何でしょうか? 皆さんはお判りでしょうか、卓話をしてくださる東京武蔵野多摩クラブの会長・渡部大輔ワイズに、いろいろと解説していただけますので、互いに理解を深め今後の打ち合わせにチャレンジしていきましょう。私のようにボケが始まりつつあるものには大変かもしれません。渡辺ワイズに感謝いたします。

7か月ぶりのWHOウォーク 武蔵国分寺とハケの道



国分寺境内の万葉集に詠われた160種の植物の名と例歌記したた白い板

WHOを再開します。武蔵国分寺は天平13年、聖武天皇の勅命で、全国に造営された官寺で最大の規模と言われています。鎌倉時代に兵火で焼失、現在史跡として整備されています。国分寺崖線の湧水の流れに沿って歩きます。

期日:10月24日(第4土曜日)

集合:JR中央線・武蔵野線

西国分寺駅南口 10:30

解散:同・西国分寺駅 14:00

参加費:300円。

参加申し込みは

090-5761-7455 (吉田)

クラブ役員

会長 篠原 文恵
 副会長 大野 貞次
 書記 本川 悦子
 会計 石井 元子
 担当主事 横山 弥利

9月の記録		ニコニコ	8,800円
在籍者数	12人	メネット	1人
(内功労会員)	1人	クラブファンド(当月)	—円
出席者数	11人	コメント	0人
メーキャップ	0人	クラブファンド(残高)	113,358円
出席率	100%	ビジター	5人
前月修正	—	ホテ校ファンド(当月)	8,950円
		ホテ校ファンド(残高)	31,272円
		WHO参加者	—人

10月例会のご案内

今月の強調テーマ：EMC/E YES

今月の例会日は第4木曜日に変更になっています。

卓話は、東日本区副書記・広報・伝達（PR）専任委員の渡辺大輔ワイズにお願いして「新しい試みとしてのリモート会議」について学びます。皆さん出席しましょう。

日時：10月22日（木）

18:45～21:00

会場：ウエルファーム杉並4F 集会室

杉並区天沼3-19-16

03-5335-7318

会費：1,500円（メンバー以外）

担当：A班（大野、本川、村野）

HAPPY BIRTHDAY

当クラブの該当者なし

受付

司会

開会点鐘

いざたて

聖句朗読・祈祷

挨拶・紹介

会食

本川 悦子

大野 貞次

会長 篠原 文恵

一 同

村野 絢子

会 長

一 同

卓話 「リモート会議のあれこれ」

東京武蔵野多摩クラブ会長

渡辺大輔さん

ハッピーバースデー

諸報告

YMCA 報告

ニコニコ

閉会点鐘

会長 他

主事・横山弥利

一 同

会長 篠原 文恵

- 9月事務会報告 -

日時：9月24日（木）

16:00～17:40

場所：ウエルファーム杉並

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、篠原、鳥越、吉田

<報告事項>

①8月の月次会計・データを確認した。

②ホテルファンド残高修正の説明。

<協議事項=例会関係>

▼11月例会

『音と映像と解説で、誰もが知っているクラシックの名曲を聴く』卓話者：樋口順英さん（東京グリーンクラブ）

▼12月クリスマス例会

今年は3蜜を避けるため、ウエルファーム杉並での通常例会に近い形で開催する。

◇12月事務会の日程

定例の例会日がクリスマスイブにあたるので、12月23日（水）に変更する。

◇1月例会

卓話者として提案されていた鴨沢小織さん（社会福祉士）日大文理学部社会福祉学科助教授の承諾を得られたので、2021

年1月例会に決定した。

<協議事項=例会以外>

①10月号ブリテン編集会議

6ページ建てとする。

②11月号ブリテン編集会議

4ページ建てとする。

③第3回あずさ部評議会（2021年5月8日（土）のホストクラブとしての準備、対応について意見を交換した。

先が見通せないことから、評議会のみで、懇親会は行わない場合、ZOOM会議となる場合、事情が好転する場合を想定して、会場候補の幅を広げて考えることにして、早期に実行委員会ないし実行責任者を決め、主催者である御園生好子部長の意向を確認することにした。

④例会会場について：

コロナ対策上3密を避けるため使用料が高い集会室を利用しなければならないこともあり得る。定員の半分の出席者数とする。通常使用の部屋は、23人、となる。

◇11月14日（土）甲府21クラブ30周年記念例会は、コロナ対策のため各クラブ1名の参加依頼があったので、当クラブ代表と

して大野副会長が出席する。

（書記代理・神谷幸男）

卓話者紹介

渡辺 大輔(わたなべ・だいすけ) さん

東京武蔵野多摩クラブ会長

1981年生まれ

2000年友人の紹介でワイズのユース活動を開始。

2002年（オーストラリア）、2004年（インド）IYCに参加。2007年6～8月STEPプログラムにてノルウエー、フィンランドを訪問。

2013年10月東京武蔵野多摩クラブ入会。

2013～14年度未来メンバー2015年アジア地域大会（京都）2016年国際大会（台湾）等に参加。

2018～19年度、区広報・伝達（PR）専任委員。

2019～20年度、区ユース事業主任

2019年アジア太平洋地域大会（仙台）参加。現在は、区ユース事業主任、区広報・伝達委員、区副書記。仕事は加熱炉、耐火試験炉の製造・販売。



国際ホテル学校留学生と小畑校長をお迎えして。右端は篠原会長



フードバンクネット西埼玉理事・丸茂真衣子さん

－ 9 月例会報告 －

9 月 17 日の例会はあずさ部部長の公式訪問、国際ホテル専門学校私費留学生への奨学金贈呈式が行われた。

公式訪問された御園生好子さんは、国際、地域、区、部における最近情報について伝達され、わがクラブの部に対する協力への感謝と激励をいただいた。

例年 6 月に行っている私費留学生への奨学金贈呈式はコロナ禍のために 3 か月遅れで行われた。小畑貴裕校長により留学生レ・タン・ハーさん（ベトナム）とニン・テッテッ・トオさん（ミャンマー）の紹介があり、続いてお二人のスピーチを拝聴した後贈呈式を行った。

卓話は、NPO 法人フードバンクネット西埼玉の理事・丸茂真衣子さんによって『『フードバンク』に期待されていること』と題して、『『フードバンク』とは何か、世界での活動の共通理念、歴史、NPO 法人フードバンクネット西埼玉の活動の初めと現在、課題について 30 数枚の画像による資料に基づいて話された。要約すると、フードバンクとは、安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で流通に出せない食品を企業から寄贈を受け、必要としている施設や団体、困窮家庭に無償で提供する活

動である。

活動の共通理念としては、貧困をなくす、飢餓をゼロに、質の高い教育をみんなに、人や国の不平等をなくそう等々 17 項目にわたる目標がある。1984 年にフランスで、続いてアメリカ、フィリピン、韓国で活動が始まり、日本では 2002 年にアメリカ人によってフードバンク団体の立ち上げがあり、2007 年時点では全国 80 カ所で活動が展開されている。2019 年時点で 43 団体が各地で活動している。

NPO 法人フードバンクネット西埼玉は、2015 年にとにかくやってみようということで発足。それまでは他の団体の活動のお手伝いのようなことをしていたが、活動上需給の量的、時期的なトラブルが多くあって、きめ細かい作業がなくては必要者の満足が得

られないことがわかり、実用的で支援現場にとって「使える」フードバンクが必要と思い現在に至っている。お蔭で高い評価を得ている。しかし、組織運営の充実、活動拠点、活動資金の確保等々課題も山積している。

お話は、社会的問題の一つである「食」の問題の一つについて我々の目を開かせていただき、意義深いお話であった。丸茂真衣子さんに感謝します。（神谷幸男）
出席者：＜メンバー＞石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、横山、吉田、＜ゲスト＞丸茂真衣子（卓話者）、レ・タン・ハー、ニン・テッテッ・トオ（ホテ校留学生）、＜ビジター＞御園生好子・江原修一・小山久恵（東京サンライズ）、大澤和子（所沢）、小畑貴裕（東京たんぼぼ）、＜メネット＞神谷



10月3日、関東東部大会と千葉ウエストクラブのチャーターナイトが同時開催された。

老人ホームに入居して

山田紀子

思いがけないなりゆきで、約2年前突然夫婦部屋が空いたとのことで、自宅近くの有料老人ホームに入居しました。しかし、あまりの生活激変に、山田利三郎も私もストレスで病気になり、入院や手術を経て、やっと落ちつきましたので、生活をお話しします。

このホームの入居者は、約50人、男女比率1:4、平均年齢90歳、完全自立4人、認知症や寝たきりの方々は約半数位です。ほとんどの老人ホームでまず夫婦2人用の部屋は用意されていません。大体、介護に疲れはてた子供達に入居させられた方々が多く、未亡人は平均寿命が長いですね。入居者は自立の方もおられますが、大体介護を受ける立場ですので、個人情報はずべてホーム側に把握され、自分の好きなようには生活出来ません。私どもは自由に外出できるという条件で入居しましたが、病気になりあつという間に安全第一という名のもとに、見守りがつくような状態になってしまいました。監視カメラは設置しないのが原則。スタッフとの信頼感を保つため、ホーム側には負担が増しますが、家庭の雰囲気や生活を少しでも残そうとしている心遣いを感じます。スタッフはとても良い方ばかりで感謝しています。

毎週音楽クラブ、園芸クラブ、書道クラブ、単発的に工作、折り紙、大人の塗り絵等のアクティビティーがあり、他にビデオ体操1時間、介護体操等がありますし、お風呂も1日おきにあるので、暇なようで結構忙しいですね。最近では認知症で脱走の名人みたいな方や、まだらぼけの方にも驚かなくなりました。また、コロナのせいで外部との接触を禁止されていますので、山田は脳トレと、大人の塗り絵に熱中しています。私はホームのお花の手入れに頑張

っています。

次に入居前に調べておいた方がよいと思うことをお知らせします。

①自分で何もできなくなり介護してくれる家族に負担をかけるようになったら入居した方がよい。ただし事前に調べておかないとすぐには入れない。

②介護付有料老人ホームは沢山あり、自立している人が多いところもある。そのために各ホームが厚生労働省の担当部門に毎月提出する報告書を取り寄せると良い。そしてスタッフの年齢層、常勤、非常勤の割合、勤務年数の長い40代～50代のベテランが多いか、離職者が多いか、入居者の年齢層、介護の度合い、入居率が高いかなどを調べる。

③一生をゆだねる大きな買い物として、ホームの経営状態は把握しなければなりません。パンフレットに小さく載っている物件説明を熟読して、自社物件か借地かなども調べると安心です。

④最初に示される費用は最低限のことしか書いてないので、それ以上必要になるということ。介護度数が上がればどんどん費用は上がる。

⑤病気入院した場合、ホームに戻るつもりなら費用は払い続ける必要がある。つまり病院代と両方払い続けることになる。

⑥現在の住まいに近いところや、なじみの病院がある所がよい。

⑦入居前に体験入居を求めるホームが沢山あるので、経験した方がよい。

以上思いついたことを書きましたが、少しでも参考になれば嬉しく思います。

(元クラブメンバー、現メネット)

やる気情報満載

毎月15日に発信

Change! 2022

EMCニュース

ワイズドットコムで配信されます

YMCA Today

■国際ホテル専門学校では2学期がスタート。1～2年生合わせて約250人が主に学内で学び、学校には活気が戻っています。また、例年4月から行う1年生の基礎学習の一つ、本物のホテルで行う授業も始まりました。ベッドメイクやレストランサービスの基本を本物のホテルマンから教わるより実践的な授業となっています。

■7月に発生した熊本豪雨災害による被災者支援として、熊本YMCAは球磨村役場より「旧熊本県立多良木高校避難所」の運営委託を受けました。感染予防を徹底することで県外からのボランティアの受入体制が整い、全国YMCAから応援職員を派遣できることになりました。東京YMCAからも9月14日より10月末まで、交替で計9人の職員を派遣。同避難所には、復旧に時間のかかる被災地域からの住民約150人(9月17日現在)が避難しており、応援職員は、避難所内の衛生管理、食事補助、運動指導、避難所建物の応急修理など、避難生活全般のサポートを行います。なお、全国で引き続き「熊本豪雨災害・ポジティブネット募金」を受け付けています。

■今夏は新型コロナウイルスの影響により、子どもを対象とした通常のサマーキャンプは実施できなかったが、山中湖センター、及び野尻キャンプ場にて「家族キャンプ」を実施したところ、計7回のキャンプに60家族、223人が参加し好評でした。感染防止対策として定員を少なくしたほか、現地集合・解散とし、現地のプログラムは自由参加とするなど、新しい形式のキャンプとなりました。同プログラムは、文部科学省の「子供たちの心身の健全な発達のための子どもの自然体験活動推進事業」の認定を受け、秋にも同様のキャンプを山中湖センターで企画しています。(横山弥利)

☆☆☆インタビュー☆☆☆ 二本松能敬さんに聴く

北見クラブ



—二本松さんは何年の入会ですか。

「1979年です。学生時代は北見YMCA キャンプリーダーとして過ごし、地元就職することになったので、担当主事に勧められて何も迷わず自動的に入会となりました」

—北見クラブとチミケップ国際キャンプ場との関係は。

「1964年に日本YMCA 同盟 60周年記念事業の一つとしてチミケップ湖畔の原生林の道有地に国際キャンプが計画されました。運営・管理は北海道YMCAに移管され、1969年にキャンプ場から約23kmの北見市に管理事務所が置かれ、それが北見YMCAとなり、1973年、地元有志・支援者を集めてクラブを結成しました」

—北見のお生まれですか。

「生まれは北見市の隣町の温根湯温泉で、中学2年生から北見市に住み、そのまま約50年。大いなる田舎者です」

—子どもの頃は、どんな子でした。

「おとなしく、三人兄妹の末っ子でチョロチョロしていたように思います」

—中学、高校でのクラブ活動は。

「中学は卓球に明け暮れ、部活の練習が終わってからお寺の専用練習場へ通っていました。今でも30分から1時間くらい家内や息子と汗を流すことがあります。高校では校内放送局に在籍し、アナウンサーではなく、音楽放送等を少しかじっていました」

—お仕事はメーカーですか。

「石灰石を採掘・加工して販売する会社に勤務しています。卒業する時に、東京の会社か地元の会社か、迷いましたが、兄に相談して地元就職しました。小さな会社ですが、みんなで一生懸命頑張れる会社なので楽しいです」

—石灰の原料は地元産だけですか。

「日本は資源のない国ですが、唯一石灰石だけは100%自給できる地下資源なのです。しかも39都道府県で採掘されています」

—営業関係ですか。

「いえ、私は電気関係の管理で入社しましたが、現実には電気の問題は2割程度であとは複合的なトラブルが多く、色々な勉強をしました」

—北見クラブのチミケップキャンプ場ワークというのは、具体的には、どんな仕事があるのですか。

「なにしろ膨大な原生林ですから、仕事は、きりがありません。春、雪が融け道が開いてチミケップに行けるようになってからワークはスタートします。雪や吹雪で傷んだところを整備し、倒木を伐採し、施設を囲っていた板などはずします。草が生え、虫が多くなってくると、キャンプが始まるまでに、草刈や虫対策の網戸の整備等をします。毛布を乾かし、テントを張り、キャビンを清掃します。ワイズはその一部をお手伝いします。網戸の網を張り替えたり、汚れたキャビンの壁のペンキ塗り、土砂を運んで低い箇所を埋めたり整地したりとかです」

—野生の動物の危険は。

「北海道の山や湖に、動物の危険がないはずはありません。熊もいますし、鹿、狐、狸などもいます。ただ、度合いから見ると、スズメバチ、ダニの方がずっと危険かも」

—お子さんも参加されましたか。

「参加しました。男の子2人です。上の子は小学生時代ずっと参加していました。下の子は2年ほ

ど行きましたが、毎晩泣いていたそうです。それ以来行ってません。兄弟でもこんなに違うものかと驚いています」

—クラブの活動では500人を集めるビアパーティーが有名ですね。

「市民にクラブやYMCAをPRするために約30年続けてきました。今年はコロナ禍で中止、来年は未定です。もう一つは、新巻鮭(サーモン)を年末に全国のワイズの方々に販売するものです。いずれも益金はYMCAの障がい児キャンプ支援に回しています」

—体を使う活動が多そうですね。平均年齢を上げない秘訣ですか。

「いえいえ、平均年齢はどんどん上がって、新規メンバー、若いメンバーの獲得は至難の業です」

—二本松さんは、部長を2回務められました。3クラブ間が150km、300km離れて交流が大変ですね。

「距離が大きいことは弊害ではありますが、根本的な悩みではありません。各クラブが平等な動きになるように知恵を出し合っています。先日ZOOMを使って北海道部の部会が開催されました。簡単につながり、割にコミュニケーションは取れたと思います」

—仕事以外での関心は。

「最近、ドローンを購入しました。趣味と仕事を兼ねています。買ってすぐに使えると思ったら大間違い。マニュアルや法律のことも勉強しなければなりません。しかし、操作レバーを動かして、プロペラが回転起動したときはちょっと感動。そしてさらに飛び上がった瞬間は感激でした」

—ご自身、ワイズに加わって良かったと思われることは。

「仕事以外でこんなに多くの人と知り合いになれたこと、仕事では出来ないことが実現できること、損得を考えずに活動できる場であることでしょうか」

—最後に、座右の銘は。

「我が道を行く (going my way)」

—有難うございました。(吉田明弘)

私の大切な物⑩

村野絢子

ストック

私の足は4本あります。2本は自分の足、あとの2本はアルミ製です。正式にはポールウォーキングシナノと言います。

1985年そそっかしい私は、生徒に誘われるまま大縄跳びを跳ぼうとして（準備運動なし、2月の寒い朝、45歳）パシィ！左足のアキレス腱が切れたのです。校長先生の車で近くの整形外科に入院しました。病気で休まれている担任の代わりに補助教員だったのです。折角頂いたチャンスを自分でダメにし、生徒たちに申し訳ない気持ちで、ギブスの足を眺めていました。数か月後、病院にいらした校長は「一度怪我すればもう、せんだろ、4月から来てください。」と関西弁で話されたのです。神様に感謝し、以後17年間、勤務しました。

でも2000年（60歳）に遠足の高尾山頂上で転んで、右腕骨折、足は大丈夫でした。

2016年（76歳）次女宅の新しいアパートを訪

ねた夕方、60cmの高さから転倒し骨にひびが入ったのです。そのためバランスが悪くさっさと歩かず、走ることも出来ません。そこで2本のストックの登場です。しっかりした左右の握り手と、底のゴムが地面を捉えるので、胸を広げ空気を吸い、姿勢よく大股で安心して歩けるのです。

金婚式のお祝いにとプレゼントされたイタリア旅行では、北のアルプスと湖水地方を巡りこのストックがよく働きました。どこでなくすか分からない私のために、名前・住所・電話番号を長女がローマ字で彫ってくれました。その後、和歌山にパンダを見に行った時には、忘れたことに気づき、宿や、寄ったお店に問い合わせても見つからず、帰宅した翌日、和歌山県警から届いていると、連絡があり、送料着払いで無事、我が家に戻ってきました。常にストック持参、「転ばぬ先の杖」なんてね。お粗末でした。



消えていく思い出

大野貞次

先日テレビ等の報道で、ある物が消えていくことが報じられました。それは遊園地の豊島園です。ここは私が大学1年生の時にアルバイトに入り、卒業後に勤めを始めたところでしたので、少し感傷的になり、その頃は何かを思い出か思いを巡らしてみました。

私は大学時代スケート部の部員として活動をしていました。特にローラースケートに没頭しており、1年の時、豊島園にローラースケート場が出来そこでアルバイトをしながら練習に励んでいました。その後社員として勤めていました。

その時期から豊島園の変貌が始まりました。新しく社長として来られた私の恩人（堤康弘氏）の指導の下、まず、ローラーコースターの建設、その後流れるプール等が建設され大きな話題となりました。その中で変わった思い出がありました。それはプールの大

きなロッカールームでビリヤードのスリークッション・世界大会が開催されることになり、その会場設営担当になり色々なことを学ぶことが出来ました。

また世界の技を見ることが出来、良い思い出となりました。その後また新しい乗り物が出来ました。それは世界で最も古い回転木馬カルーセル。ドイツで生まれ、アメリカに渡り、子供達を楽しませ、そして日本に来ました。大変な工事でしたが、完成しますと絢爛豪華、そんな感じを受けました。そして子供達の喜びの歓声が響き渡り楽しい時でした。21歳から33歳までの12年間、アルバイト時代からだ、16年の間過ごした日々の思いでは尽きません。

豊島園の永い歴史が幕を閉じることに成りました。いや閉じたのです。そして私の思い出もその場から消えることになりました。

また、私の豊島園での仕事だけではなくスケート選手・指導者として、多くの子供たちを選手とし

て育成し世界におくりだしたのも今ではよい思い出となりました。それにしても無くなったことは残念です…。

編集後記

新型コロナウイルスの感染症が収まらない中、皆様から多くの記事をお送りくださり感謝です。特に元メンバーの山田紀子さんから大変貴重な原稿をいただきました。いずれ私もその日が来る時のため、その準備をしなければならぬと覚悟を決めねばと思わせられました…。

お読みになり皆様はどのように感じられましたか？その感想をお寄せいただければと思います。

アッという間にすぐそこに冬が到来する気配が漂ってきましたね。皆様には御体を大切に過ごされますように。またいろいろと手違いによって発行が遅れてしまいましたがご容赦をおねがいたします。

(T・O)